

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2023-夏

No.102

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



水路閣 南禅寺 2004年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

文化を分化

〈地域にある文化〉

地球の文化を分類するとしたら、アジアの文化、ヨーロッパの文化、アフリカの文化、北米、中南米の文化、オセアニアの文化などという地域ごとに区別して文化を分類する仕方がある。もっと絞って行くと、アジアの文化の中には東アジア、東南アジア、南アジア、中央アジア、西アジアがあり、東アジア文化の中に、日本文化があり、中国、北中国、東中国、上信越、関東、中部、関西、中国、四国、九州、琉球があり、さらに四七都道府県の文化があり、またその中には各都道府県の地域、地方があり(私の出身地の岐阜県の場合だと、飛騨地方と美濃地方があり、美濃には西濃、中濃、東濃の地方がある)、そしてさらに市町村の文化がある(全国での市町村の数は一、七一一)。さらに細かくしていくと、その市町村の中にも、異なる文化がある。市町村の中にも地形や歴史によって、似ているけれども少し隣とは違っている文化があったりする。寺社仏閣での氏子であったり、檀家であったり、お祭りの山車であったり、神輿であったり、例えば福岡のお祭りである博多祇園山笠は博多という福岡市の中の地域に、博多の総鎮守である櫛田神社の元に七つの曳き山(御輿)がある(恵比須流、大黒流、土居流、東流、西流、中洲流、千代流)。そして、その曳き山の中にもさらにさらに地区がある。例えば大黒流の中には十二の地区がある(すノ一、つノ一、下新、麴屋番、古ノ一、川中、すノ二、川端、すノ三、古ノ二、寿通、つノ二)。この十二の地区にはそれぞれ異なる柄の模様があり、似ているけれども微妙に異なる柄が伝統的に使われている。私も大黒流のすノ二に参加したことがあるのですが、同じ法被でもひとりひとりの着こなしがそこにはあり、それに対する個人の理解、歴史観があり、互いにそれを熱く語る人たちがいた。宇宙に浮かぶ青い地球の文化の解像度をどんどん上げて行くと究極的には一人のひとりにまで行き着いて行く。究極の地域文化は個人

という見方もあるともいえる。「地球の文化は今地球上にいる8036941853人(二〇二三年六月五日6時39分現在/Current World Populationより)の文化の集合体」なのです。文化を地域で総括して括るのではなく、ひとりひとりの個の存在の存在として捉えることも出来るのではないのでしょうか。人間には「一人」という単位があります。見た目の姿が似ていても、趣味趣向思考行動が似ていても、自身以外の人間は自身ではありません。ただ：人間は自身の周りの様々な環境によって変容して行く生き物なので、同じ様な環境の中で育って行くように似てしまうのが人間なのです。

〈個人にある文化〉

地域ごとにその地域の文化があると感ずるのとは全く違って、地域が違うけれども同じ文化を感じたことがあります。それは、南米アルゼンチンで(Autism Spectrum Disorder/自閉スペクトラム症)の人たちが通っている施設に行った時のことでした。その施設の空気感、人々の動き、振る舞い。喜びのタイミング、困る時のタイミングが日本の同様の施設と同じ感じであったのです。南米に行けば、美術も音楽も建築も食事も日本とは異なり、南米らしいもので溢れているのですが、そんな中で、全く日本と同じ様な空気を感じる空間がありました。地域性というものが文化という区分けではなく、個人と個人が物理的な距離のある地域を超えて繋がっている感覚をその時に得ました。気候、地形などから人間が影響を受けて生まれてくる文化と、それらの環境の影響を受けずに受け入れられることができないう状態、生まれてくる文化がある。その場合、地球上の物理的な距離とか、気候は関係なくなってくるのです。

〈個と個〉

この状況は近年急速に発達しているサイバー空間に通じるところがあるといえるような気がするのです。朝になれば太陽が昇り、夜になれば陽が

法隆寺

(法隆寺地域の仏教建造物)



ユネスコ世界遺産(文化遺産)シリーズ

撮影・仙波志郎

七世紀に創建された法隆寺は、聖徳太子ゆかりの寺として知られる。寺域は広く、金堂、五重塔を中心とする西院伽藍と夢殿を中心とした東院伽藍とに分けられる。五重塔は木造建築物としては世界最古である。

法隆寺は古代寺院の姿を今に伝える仏教施設であり、その有する美術・工芸品は世界に冠たる貴重なものばかりである。

法隆寺をめぐる謎やロマンは多く、研究者はもちろんのこと、歴史好きの人々の関心も高い。一九九三年に姫路城と共に日本初のユネスコ世界遺産として登録された。

現在、わが国には文化財保護法が制定されているが、この法律が誕生したきっかけは、金堂の壁画の模写作業中に起きた失火・火災にあった。この壁画は仏教絵画として世界的な高評価を得ていたが、焼損し、黒こげとなってしまった。残存部は重要文化財として保護されているが、これをどう管理、維持し、さらに一般公開するか、手だてが検討されている。

一度失われた文化財は二度と元には戻らない。法隆寺は文化財を守る大切さを人々の心に発信している。

東洋美術大学長 日比野克彦 (ひびの、かつひこ)



沈むという現実の重力のある空間とは異なった、もう一つのバーチャル空間においては、地球上のどこにいても、バスボートがなくても、一個人という単位で均一した空間で時間を過ごし交流することが出来るのです。物理的な身の回りの環境との距離をおき、地球環境という外界を介することなく、直接自己の中の世界同士が繋がることが出来る世界が急速に構築され続けているのです。

〈地球の文化〉

私たちの育んできた文化、これから育んで行く文化は、ひとりひとりの人間の周囲の環境によって、その文化を担う人間が育成されていきます。何億という人口を抱える国という単位で育成されて行く文化、国という単位を超えて地域という環境で育成されて行く文化、そして、究極の地域である一人の人間のそれぞれの違いを認識できる環境で育まれる文化。これらの文化の育成されてくる背景の違いが、どの様に合成されていくのかがこれからの地球の文化の重要なポイントになって行くような気がするのです。

筆者略歴

一九五八年岐阜市生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修了。一九八二年第三回日本グラフィック展大賞、一九八三年第30回ADC賞最高賞、一九八六年シドニー・ビエンナーレ、一九九五年ヴェネチア・ビエンナーレ出品。一九九九年毎日デザイン賞グランプリ、二〇一五年文化庁芸術選奨芸術振興部門文部科学大臣賞受賞。二〇〇七年より東京藝術大学教授。二〇二二年四月より東京藝術大学長に就任。他の主な要職として、岐阜県美術館長、熊本市現代美術館長、日本サッカー協会社会貢献委員長を務める。

修復成った野生司香雪世界の仏伝壁画

日本画家としての誇りと
仏教への崇敬の念をいだいて
釈迦の偉大な生涯を描いた画家の
業績に新たな生命をそそいだ人々の
熱い心をたたえ、感謝する……。

1. はじめに

日々何千何万の人々が目にする日本人の描いた絵画が他にあるだろうか。それは近代の初め、岡倉天心が世界に通用する日本画の創造を託した日本美術院に繋がり、画壇から疎遠になっても画家としての自尊心を



修復工事の様子(南壁、入口側)

持ち続けた会友の野生司香雪が、日本、芸術の母の国への恩返しとインド聖地で描いた壁画。長らく募金の窓口をお願いしてきまいた「聖地サルナート(インド)野生司香雪の仏伝壁

画保全プロジェクト」が、コロナ禍の中、五年がかりの本年一月に完了しました。プロジェクトはインドの仏教復興のため一九三六年に建立された初転法輪寺からの壁画修理依頼に応えたものでした(経緯等は本誌の第91、98号参照)。

2. 完了したプロジェクトの目的と成果

プロジェクトの目的は①壁画の剥落止め、②その参考にする写真家丸山勇氏が撮影した壁画完成五十年後の写真のデジタル化、最後に③記録写真撮影の三点でした。そしてまず写真のデジタル化を、次に壁画のある東西南壁を三期に分けての剥落止め・保存修理工事を実施。令和元年(二〇一九)に第一期の東壁、コロナ禍を挟んで昨年末に第2・3期の西と南各壁を完了させました。当初計画は現状維持を優先し剥落止めは膠を使用、補彩色はしない予定が、直前に寺院側からの宗教上の理由から膠の使用をアクリル樹脂溶液に変更、また補修の成果が目に見えるようにとの希望で補彩色を追加で施工。最後に文化財記録保存を兼ねた四億画素の高精細画の画像撮影を終えました。



「日本から愛をこめて」2023・2・5付
タイムズオブインディア紙(上半分)

『野生司香雪 仏画の世界』を刊行、掲載する壁画の撮影に訪れた丸山氏を介して住職がその壁画の修理を日本の手でと伝えてきました。その後、筆者がタゴール大学校内に建てられた荒井寛方・詩聖タゴールの友情記念石碑の完成式典に誘われ参加した際、団長の平山郁夫先生から香雪の壁画は「先輩の立派な日本画。アジャンタ、敦煌に繋がる大切な仏伝壁画、その保存修理を行うなら協力する」主旨の話がありました。そこで香雪の孫にあたる義光氏と現地を視察、一方で南澤副貫首にもご相談。しかし平山先生が亡くなり頓挫しました。その後何年かして寺院対象通販会社の生田要助(当会会長)から壁画を全国で紹介するためインド旅行社トラベルサライの中村義博氏から懇意



「長野展」の様子(北野カルチュラルセンター)。「降魔成道」の天下図の前での記念写真。前列中央が南澤永平寺貫主

3. 工事安全祈願祭、完成式典の実施

保存修理完了後の昨年十二月十六日に完成式典を行いました。工事開始時には安全祈願をと曹洞宗大本山永平寺の南澤副貫首(現貫首・当会顧問)と在留日本人僧らにお願い、今回は名代の小林監院がインドの僧侶らと共に催行されました。特筆すべきはインド外務省文化評議会(ICCR)サハスラブッテ会長の来臨です。会長には第2・3期工事出発直前に東京でお会い



完成式典の様子(前列左から2人目シーワリー師、サハスラブッテ会長)

する機会があり、近代日印民間文化交流の象徴の壁画の保存修理が間もなく終わるのでぜひご参加をとお案内しました。インド国内に影響力のある会長の臨席



野生司香雪画伯顕彰会
事務局
事務局長
溝渕 茂樹
(みぞぶち しげき)

5. 終わりに

インドの仏教復興を願ったタルマバーラは香雪に二〇〇年もすれば世界中から模写にやってくる、香雪が一〇〇年保つものをと精進した壁画を次の一〇〇年に引き継ぐお手伝いがなんとか終わりました。冬場、保存修理中も寺院を訪れ壁画を見上げるインド人や多様な民族の姿は絶えません。ここでは本尊の礼拝だけでなく、香雪の描いた仏伝壁画に手を合わすアジアの人々、また鮮明な色彩、西洋画とは異なるタッチで描かれた日本画の壁画に見入る西洋人の姿があります。彼らの心に焼き付く壁画の保存修理を皆様のご支援で実現できたことを誇りに思い感謝します。

このプロジェクトの最後は香雪終焉の地長野市仏教会が開催する展覧会。南澤師が天下図「降魔成道」図の前で没後五十年法要の団円。改めて皆様のご支援を心から感謝しお礼申し上げます。

なお、五月二十七日に完成式典のご案内を差し上げていた鈴木治駐印大使が壁画を視察された知らせが寺院から届きました。

筆者略歴

元香川県文化会館(現香川県立ミュージアム)学芸員・専門職員、野生司香雪画伯顕彰会事務局

4. 壁画の保全、保存修理へのご縁

プロジェクトは香雪が献納した壁画の天下図を大本山永平寺が一九八五年頃に長野県で軸装したことに始まります。それを借用し香雪の故郷香川県が回顧展を開催、翌年に香雪終焉の地長野県の信濃毎日新聞社が

は今ベナレス・サルナート一帯の世界遺産登録を急ぐインド政府関係者に、また民間にも壁画の存在を再認識してもらう機会になりました。また丁寧等は随時地元紙が報道、式典後にはデリーの英字全国紙タイムズオブインディアが「日本から愛をこめて」の記事を掲載しました。さらに式典で昨年までインド大使館ヴェーカナタ文化センター(VCC)所長で私達の活動に協力してくれたベナレスヒンドゥー大学仏教学科シッダルト・シン教授が滞在三年間の活動をまとめた「リメンバード・ザ・レジェンド」を大菩提会が刊行。インド、海外の人にインド大使館や香川県立ミュージアムを借りて、募金のためにフォーラムや展覧会を開催する私達の活動が紹介されました。シン教授との出会いはインド大菩提会総書記のシーワリー師と筆者が新宿中村屋での日印協会と大使館の懇親会に参加した時で、二人は大学の同窓生とか、不思議な縁に驚きました。

無外如大尼生誕八〇〇年によせて

西川杏太郎先生への感謝もこめて

過去・現在・未来と続く人の世の縁。
無外如大尼の御仏の心によせる
法灯は時の流れを超越して
今も脈々と受け継がれている。

亡き西川杏太郎先生へ

この春、梅の香りが残る季節に美術史研究家で、奈良国立博物館館長や東京国立文化財研究所所長等を歴任された西川杏太郎先生は旅立たれ、桜、藤、躑躅、杜若と春から初夏の花々を手向けたく思いながら時が過ぎていきました。本年、令和五年の年には、西川先生にたくさんのご報告をさせていただきたく思っております。どこかで見守っていただいているのではない、ご報告申し上げます。



中世日本研究所玄閣において
宝鏡寺門跡蔵 無外如大像(西川杏太郎先生撮影)

(公財)文化財保護・芸術研究助成財団には、二十年以上にわたり多くのプロジェクトを支援、サポートいただいております。その最初のきっかけは西川杏太郎先生でした。西川先生、覚えておられますか。今、京都

の中世日本研究所の玄閣に入りますと、西川先生がバーバラ・ルーシユ先生に贈られた額入りの無外如大尼の写真が飾られています。研究所を訪れる人たちが最初に会おうお方です。

ご縁の始まり

無外如大尼はバーバラ・ルーシユ先生と、尼門跡寺院の縁が始まった、そのきっかけとなった尼僧さまです。出会いはこの西川杏太郎先生が撮られた一枚の肖像彫刻の写真でした。今から五十年ほど前に西川先生が編集、執筆された『日本の美術』の「頂彫刻」(一九七六年八月号)に無外如大の写真が掲載されていて、鎌倉時代の高僧とルーシユ先生が出会われたのが今につながる全ての始まりでした。如大尼を開山とする景愛寺の法灯を継ぐいくつのお寺が存在することがわかり、そこから尼門跡寺院の調査研究が始まりました。

中世日本研究所は、大聖寺門跡の菩提寺、大歡喜寺の庫裡をさせていただいております。研究所の玄閣を開けると、まず、私たちが向き合うのが、この無外如大尼の頂相像です。このモノクロ写真は頭部のみでやや横をむかれていて、西川杏太郎先生が

が、その当時の資料などは限られている。今ですら資料を集めるのは非常に難しいことである。ましてや今後何百年が経つと、さらに難しくなることは明らかである」ということでしょうか。
このように書き残し、無外如大にまつわる伝記を編まれました。それから三〇〇年後の今、同じように研究を進め、さらなる資料とともに、一冊の本にまとめることにしました。国内外の研究者に協力いただき、英日二ヶ国語で、この秋に出版予定です。修復や研究が進められるのは、遠忌や記念となる年ごとに遺徳を偲び、次の世代へとつなぐ事業が古より行われてきたからです。修復とはただ傷んだところを修理するだけでなく、歴史を振り返り、研究を深める最大のチャンスとも言えます。

出会いというご縁

当研究所は創立して五十五年となります。二〇一一年に、ルーシユ先生が名誉所長に、そして京都在住のモニカ・ベータ先生が所長に就任し、早十二年が経ち、プロジェクトは受け継がれています。二人は大学で既に半世紀以上も前に師弟の関係で出会っていました。巡り巡って京都で再び縁が広がっています。

一方、ベータ先生も、既に西川杏太郎先生に出



真如寺蔵 無外如大像(美術院にて)



真如寺法堂



真如寺法堂内 宝鏡寺門跡歴代宮像
左より月鏡軒尼、仙寿院宮、高德院宮、本覚院宮のお像。
平成31年(2019)4月23日に安座法要が執り行われた

文化庁におられ、この像を一九七三年に重要文化財に指定されたときに自ら撮られた写真です。その後、コロンビア大学で一九九八年に無外如大尼七百年遠忌法要と「尼門跡寺院の秘宝」展、「日本史における尼寺文化」に関する国際会議も開催されました。これらのことをきっかけに、美智子上皇后様にご関心を寄せていただき、平山郁夫先生の財団をご紹介いただき、気が付けば既に二十数年となり、昭憲皇太后大礼服など多くの尼門跡寺院の修復プロジェクトを行ってまいりました。

八〇〇年の時の流れの中で

令和五年(二〇二三年)は無外如大尼(一二三一九八)の生誕八〇〇年にあたります。中国からの来日僧で、円覚寺開山、仏光国師無学祖元(一二二六―一八六)の法を嗣いだ尼僧さまです。無外如大尼を開山とする景愛寺の法灯を継ぐのが、尼門跡寺院の、大聖寺、宝鏡寺、そして、西川先生が撮影



無外如大頂相 真如寺蔵

会っていました。大学を卒業してからずっと京都に住だったベータ先生は、一九七〇年代の初め、ハーバード大学の恩師であり、日本美術研究の第一人者、ローゼンフィールド教授に勧められ、西川杏太郎先生が書かれた『舞楽面』の本の翻訳をすることになりました。西川先生は、当時、東京国立博物館で修復責任者をされていたのですが、月に一回ほど、京都の美術院国宝修理所へ来られていた西川先生を訪ね、いろいろとご指導を受けながら翻訳を進めました。その真摯な研究姿勢から確かな信頼関係となり、『在外日本美術の修復』という大著の翻訳にも関わることになりました。この本は、平山郁夫先生と西川杏太郎先生ら、文化財修復の第一人者の方々によるものです。

文化財保護・芸術研究助成財団にも長く関わられた西川杏太郎先生のご事績や研究は日本の文化にとって非常に大きな貢献でした。その影響は波紋のように広がっています。波紋と波紋とが重なり、新たな波紋も広がっていくことと思います。その度に皆が西川先生のことを感謝の念を持って思い出すことでしょうか。無外如大尼という鎌倉時代のひとりの尼僧が今に伝えられているように、西川先生が私たちへメッセージとして残して下さった多くのことを、次の世代が引き継いでいければと思います。西川杏太郎先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

展示案内

無外如大尼生誕八〇〇年記念

「女性と仏教」展

相国寺承天閣美術館

二〇二三年五月二十八日〜七月十六日

出版案内

『無外如大尼』思文閣出版 二〇二三年秋出版予定

The Woman Who Opened Zen Gates:
The Life and Legacy of Abbess Mugai Nyodai

※この世にありえないもの。実在するはずがない物事のたとえ。

大鼓の不思議

独特の澄みきった高い音。
幼児期にちよつとした縁から
大鼓の世界に魅せられていった
心を語る。

大鼓で初舞台

大鼓という楽器は、世界遺産にも登録されている日本の代表的な伝統芸能・能や歌舞伎の音楽を担当している打楽器です。また年中行事の一つ、ひなまつりに飾る雛段の「五人囃子」は、向かって左から二番目の人形が持っている楽器が大鼓、真ん中のお人形が持っているのが小さい鼓で小鼓となります。向かって左から、太鼓、大鼓、小鼓、笛とこれらを四拍子といい、右端の扇を持った謡の人形を加え、能の音楽編成と同じになります。

私は七歳の時、初舞台のお役が大鼓でした。夏の浴衣会（発表会）で子ども達だけの囃子で「長唄・勢い（菊寿の草摺）」の演奏をすることになりました。他の子ども達より一番年下の私にとって肩に担ぐ小鼓は難しい、大鼓なら膝の上に乗せるので大丈夫だろうという大人の判断で大鼓を打つ事になりました。



五人囃子



初舞台（台東区・浅草見番にて）

「コミを取る」とこと選んでゆきますと、どんな気持ちで座っているのか、どうして稽古に来ているのか、と考えることとなります。前向きに明るく生き続けることが大切、これが「間」と大鼓は教えてくれました。



大鼓に導かれて

それから二年、小学四年の頃、母（初代望月太左衛門）がNHKの公開放送で「長唄・吉原雀」の大鼓を打ちました。父の門弟で大鼓打ちの望月太意次郎さんとずっと稽古をしていました。子どもの私が聞いていてもとても楽しい曲でした。本番後、偶然公開放送を聞きにいらしていた担任の、いつも厳しい先生が今までになく母のことをほめてくださいました。高校生になり、先代・望月太喜右衛門師の演奏会に参加させていただいた時、父と先代・藤舎呂秀師の「長唄・勸進帳」の演奏を聴き、私も大鼓をやりたい！と思いました。当時、合唱をしていた私にとって心打つ大鼓の演奏でしたが、音楽理論の三拍子、四拍子の論理にあてはまりません。父は「一拍子なんだ」と言います。偶然「題名のない音楽会」を見ると、民族音楽学の小泉文夫先生が「日本のリズムは、強弱ではなく、長短でできています」とお話しされていました。藝大で先生の講義を受けた！と思いました。入学後はおかげさまで長唄囃子の担当教官、先代・望月左吉先生に大鼓をずっとレッスンしていただくこともできました。また、在学中から能楽囃子・高安流大鼓の安福春雄師、安福建雄



重要無形文化財・長唄（総合認定）保持者
望月太左衛門
（もろしげ・たさえ）

大鼓の魅力

この当時、NHKの番組の中で安福春雄師が能楽の場合、大鼓が拍子をリードしてゆくというお話をされているのを聞きました。歌舞伎囃子の場合、小鼓が複数並ぶことから立鼓がコンサートマスター的な役割を担います。大鼓が囃子という音楽の中でどのような役割があるのか？考えていく中で国立劇場研修生の講師をさせていただいていたことから、一九九一年「研修用教材 大鼓の心得」の発行に伴い、歌舞伎囃子の太鼓方・柏扇之助師の聞き書きを望月太左之助氏と共にいたしました。柏師が七代目から十二代目望月太左衛門家元の小鼓の芸脈を大鼓によって繋げてくださったということがあらためてわかりました。能楽同様、歌舞伎にも大鼓がリードしてゆく囃子の表現があるのです。

大鼓が高音である理由も能楽と同時代に私が稽古にうかがっていた江戸里神楽家元・若山胤雄師が「本当は太鼓や大太鼓より鉦が一番難しい」とおっしゃっていたことと重なり、囃子の中で、積極性の必要な高音域の打楽器としての役割は共通だと思いました。



柏扇之助師へのインタビュー（国立劇場にて）

大鼓が拍子をリードしてゆくなかで掛け声が重要です。大鼓は横に手を伸ばし、自分の意思でしか音を出すことができません。安福師の御稽古で、小鼓先で打つ音ばかりを気にして「チイチイパッパじゃないんだ！」とよく御指導いただきました。打つ前の掛け声、その前に「ン」「ツ」と

大鼓の構造

「鼓」は二枚の革の間に、胴を挟んだ膜鳴楽器で、雅楽の鞆鼓や大太鼓などもこの仲間です。能楽、歌舞伎で使用される二種の「つづみ」と呼ばれる大鼓、小鼓は狭い意味で、小鼓を「鼓」、大鼓を「大皮」と呼ぶ場合があります。東洋思想の陰陽論でいうと、陽・火の性質が大鼓、陰・水の性質が小鼓となります。



大鼓（右）と小鼓（左）

胴は桜材を使用し、真ん中がくびれた砂時計型の「筒」です。大鼓は胴の外側中央に節があり、小鼓との大きな違いです。胴の内側にも鉋目をつける。胴中央に向かつて少し狭くなるようにカーブを付けるなど、表面で打った内部の空気が圧縮され、裏面に向かつて再度解放され、鼓らしい音の響きになります。皮は共に馬革を使用し、小鼓は薄くなめした革、



大鼓の構造

皮は共に馬革を使用し、小鼓は薄くなめした革、

筆者略歴

重要無形文化財・長唄（総合認定）保持者。
東京藝術大学にて博士号（音楽）取得。
二〇〇〇年前より続く歌舞伎囃子望月流宗家家元である父・十代目望月太左衛門に幼少より師事。
台東区内はじめ、小学校・幼稚園にて「おはやしの会」を約三十年継続。
アメリカ、ドイツ、イタリア、スロベニア等、国内外で邦楽の普及・啓蒙の為の演奏、講演など活動範囲を拡大中。
国立劇場研修生養成講師
特定非営利活動法人日本音楽囃子文化研究会理事長。
伝統芸能教場鼓楽庵主宰。

日中韓文化交流フォーラム復活への道

世界を震撼させた
新型コロナウイルス感染症。
今、その猛威も鎮まりつつある。
フォーラム再開にむけて三カ国は……。

青天の霹靂

日中韓文化交流フォーラムは、二〇一九年の第十五回・東京開催以後、休会が続いています。日中韓の三カ国の関係において、政治情勢が極めて厳しい状況下にあっても、中断することなくフォーラムを続けることができたことを各国関係者は互いに誇りとしてきました。

フォーラム自体の内容も回を重ねることに洗練され、充実したものへと進化していったように思えます。その意味でも次の回への期待は大きいものがあります。そんな折です。好事魔多しの諺の通り、新型コロナウイルスという病魔が世界を席捲。

結果的には二〇二〇年から二〇二二年に至る三年間、フォーラムは中断せざるをえませんでした。

この間、三カ国の関係者は手を拱ねていたわけではありません。特に第16回の開催国となる韓国の関係者の皆さまの熱意には心打たれるものがありました。要は、フォーラムを再開するにはどういう方法があるのだろうか、ということ。まっ先に提案されたのが、誰もが思い浮かぶオンラインの利用。しかし、三カ国語の同時通訳、長時間三カ国の委員は自分たちのデスクないし会議室等で拘束されてしまう、という

問題もあり、これは技術的にちょっと難しいか、ということになりました。

フォーラムは似ていて、また異なる文化を有する三カ国が、それぞれの文化を語り、それを理解するということが目的の一つです。そのためには対面で肉声を聞くことに勝るものはないでしょう。

新型コロナウイルス感染症は、当初は青天の霹靂的な感がありました。周知の如くこのパンデミック状況は近代史における一大事件となっていました。

思い出すことなど

フォーラムのテーマも最初は抽象的な課題が多かったように思えます。しかし、回を追うごとに、いかにも三カ国の文化交流フォーラムだと感ずるものがふえてきました。その中で特に印象に残ったものをいくつか列記してみます。

二〇一一年の第7回。韓国慶州市では、東日本大震災の直後とあって討議されたテーマは「災害と文化財」でしたが、伝統文化の紹介は興味深いものがありました。三カ国の伝統仮面劇が文化芸術公演として披露されたのです。日本からは東京藝術大学邦楽科の学生の皆さんの参



文化芸術公演のテーマは伝統仮面劇。東京藝術大学の邦楽科の学生の皆さんによって「羽衣」が紹介された。



中国からは京劇の一分野である變臉が紹介された。一瞬のうちに面が変わる早変わりには驚嘆の声が……。



多彩な登場人物と民族色豊かな曲を背に演じられる風刺劇。韓国民のエネルギーに満ちあふれた-鳳山タルチュム。

光明

日本、中国、韓国の三カ国の人々が共通に好む飲料といえば「お茶」でしょう。その茶にまつわる文化の似て非なる差異を再認識させられたのは中国貴州省貴陽市においてでした(第14回)。貴陽市では「わたしは未来」の作曲者・松下功先生の計報に接したこともあって心に残るものが大でした。

二〇一七年・第13回の韓国のリゾート地・江陵市で

新型コロナウイルス感染症もワクチン接種の効果もあって、世界的にもかなり落ちついてきました。WHO(世界保健機関)による終息宣言は出ていますが、様々な分野でコロナ以前の状態に復しているようです。

日中韓文化交流フォーラムも、この秋の再開をめざして目下調整が進んでいるところです。具体的には開催地は韓国の仁川市が予定されています。期間は十月下旬から十一月初めにかけて、となっています。テーマやサイドイベントに関しては詰めめの段階に入っているところです。

このまま何事も大事なく過ぎれば、明年の新春号において恒例の御報告ができるかと信じております。

この時のサイドイベントは、絵画制作のワークショップ。各国二名の若手の画家が五〇号サイズでオリンピックをテーマにした作品を描き、仕上げをフォーラムの会場で行うというものでした。日本からは宮廻正明理事長(当時)のお弟子さんにあたる鷹濱春奈さんと松原重実さんが参加、協力していただきました。

三カ国の六作品は平昌オリンピック組織委員会に寄贈され、オリンピックの期間中に公開展示されました。

フォーラムの成果がこうした形で末永く韓国の地に残ることは大変結構なことと感じた次第です。

二〇一九年、東京で第15回のフォーラムが開かれました。テーマは「音楽—アジアをつなぐ弦の響き」というものでした。各国に伝わる伝統的な弦楽器が名手によって演奏され、聴く人を魅了したわけですが、その余韻にひたる中、第16回・韓国でのフォーラムに期待が高まったと

第12回 広島市



出汁を引き出す実演をする北岡三千男氏

第9回 新潟県佐渡市



鬼太鼓を披露する「小倉こども鬼太鼓育成会」の児童の皆さん

第13回 韓国江陵市



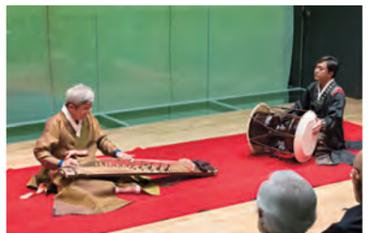
3カ国の若手有望画家の作品を講評する宮迎委員長

第11回 中国温州市



「中日韓文化交流のタベ」のオープニング—温州大劇院コンサートホールにて。ここで温州外国語学校学生合唱団によって「わたしは未来」が3カ国語で披露された。

第15回 東京



「沈香舞」を演奏する関養植先生。右は伴奏(チャンプ)の関栄治氏



「秋篠寺」を演奏する萩岡松韻、上條妙子、青木鈴慕の各先生(左より)



ヴィヴァルディの「四季・秋」はAIを用いたアニメをバックに……。



古琴を演奏する楊青先生。右は夫人の梁雅さん



財団専務理事
小宮浩
(こみや・ひろし)

定款第4条の定めに従い、次の事業を行いました。
令和4年度事業報告

■文化財保存修復助成事業
国内文化財の保存修復助成事業として、29府県教育委員会等から推薦のあった61件の中から、28件について助成を行いました。
〔No.10の事業については、助成決定後辞退の申し出がありました。〕

(敬称略・以下同)

- (美術工芸)
- ①山形県・平塩寺
平塩寺木造阿弥陀如来坐像及両脇侍菩薩立像保存修理事業
 - ②栃木県・最勝寺
最勝寺大岩山毘沙門天木造金剛力士像修復事業
 - ③埼玉県・堀兼神社
堀兼神社隨身門及び二神像保存修理事業
 - ④神奈川県・弘濟寺
弘濟寺地藏菩薩坐像保存修理事業
 - ⑤新潟県・極楽寺
極楽寺観経曼陀羅・涅槃像修理事業



(修理前)



(修理後)

⑥福井県・宮留観音講
木造阿弥陀如来坐像他2像保存修理事業



(修理前)



(修理後)

⑦静岡県・矢奈比禰神社
北野天神縁起絵巻巻修繕事業



(修繕前)



(修繕後)

⑧三重県・殿村自治会
木造阿弥陀如来坐像修復事業

⑨愛媛県・太山寺
太山寺木造五智如来坐像保存修理事業



(修理前)



(修理後)

(建造物)

- ⑩福岡県・永源寺
永源寺木造聖観音立像保存修理事業
- ⑪熊本県・楽行寺
楽行寺真宗禁制の遺物保存修理事業
- ⑫宮城県・須江充宏
須江家住宅附棟門・塀中門・土地保存修復事業
- ⑬福島県・長谷寺
長谷寺山門保存修理事業
- ⑭茨城県・綿引一夫
綿引家住宅主屋・倉屋根葺替等保存修理事業
- ⑮群馬県・赤城神社
三夜沢赤城神社本殿保存修理事業
- ⑯千葉県・猿田神社
猿田神社本殿保存整備事業
- ⑰山梨県・住吉神社
住吉神社本殿屋根修理事業
- ⑱長野県・池口寺
池口寺薬師堂保存修理事業

⑲岐阜県・真木倉神社
真木倉神社本殿保存修復事業



(修復前)



(修復後)

- ⑳東京都府・霊雲院
霊雲院小書院、庫裏保存修理事業
- ㉑兵庫県・大歳神社
大歳神社本殿保存修理事業
- ㉒鳥取県・遠藤信典
遠藤家住宅保存修理事業
- ㉓香川県・萩原寺
萩原寺仁王門保存修理事業
- ㉔長崎県・大念寺
大念寺鐘楼山門整備事業
- ㉕宮崎県・日高 久
日高家住宅修理事業
- ㉖鹿児島県・森 節子
森重堅氏住宅オモテ附蔵保存修理事業
- (有形民俗)
- ㉗富山県・八尾町今町曳山保存会
八尾町祭礼曳山保存修理事業
- ㉘滋賀県・双六町自治会
日野曳山祭／曳山保存修理事業

■芸術研究等助成事業
文化財の保存修復及び芸術に関する調査研究、成果の発表、国際交流事業の実施等に対する助成事業として申請のあった27件の中から、16件の事業に助成を行いました。
(研究・事業)

- ①国宝「信貴山縁起絵巻」現状模写研究(東京藝術大学 美術学部 教授 吉村誠司)

- ②『和楽の美 源氏物語』葵上・賢木の巻(東京藝術大学 音楽学部 准教授 上條妙子)
- ③ミュージック・フロム・ジャパン48周年音楽祭(日本ワーグナー協会 事務局 長松平あかね)
- ④盆石展図録制作出版(正統な盆石流派の会長 佐藤律子)
- ⑤山田流箏曲の楽譜の出版(東京藝術大学 音楽学部 教授 萩岡松韻)
- ⑥工藤晴也退任記念展「ユーラシア大陸における壁画技法の比較研究成果発表」(東京藝術大学 美術学部 教授 工藤晴也)
- ⑦アジア漆の造形と祈り展「東南アジアの漆」展覧会とシンポジウム(宇都宮大学 共同教育学部 教授 松島さくら子)
- ⑧「ヘリテージ・デザイン実践講座」を通じた建築と都市の保存デザイン教育の実践と記録(東京理科大学 理工学部建築学科 教授 山名善之)
- ⑨現代風神雷神考2022—廃村に残された文化財の保存修復と移動式修復センターの可能性(東北芸術工科大学 芸術学部 教授 三瀬夏之介)
- ⑩ニンフェール第17回公演「クセナキス 生誕100周年記念」(千葉商科大学 客員講師 伊藤美由紀)
- ⑪クセナキス—音の建築家—Vol.1(東京藝術大学 演奏芸術センター 准教授 楠田健太)
- ⑫オーケストラ・プロジェクト2022 再生への響き—今、そしてその先へ(東京芸術大学 教育学部 教授 山内雅弘)
- ⑬アサラス 第10回演奏会—第2回「松村賞」受賞作品、会員作品と松村慎三作品による—(滋賀大学 教育学部 教授 若林千春)
- ⑭完新世初期および中期の北東アフリカに

おける人間の動きと文化的相互作用の再考—土器研究の視点から—(東京都立大学 大学院人文科学研究科 博士後期課程 眞田さくら)

⑮ブツタと白隠禪師(日印文化交流ネットワーク 事務局 堀内伸二)

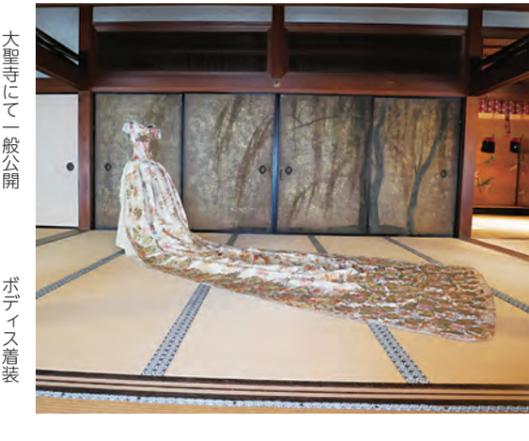
(外国人研究者招致)

- ⑯外国人研究者招致 Remy Dreyfuss-Deaigne(レミードレフュス・デュセーニユ)(独)国立文化財機構東京文化財研究所 保存科学研究センター修復材料研究室長 早川典子)
- ⑯外国人研究者招致 Remy Dreyfuss-Deaigne(レミードレフュス・デュセーニユ)(独)国立文化財機構東京文化財研究所 保存科学研究センター修復材料研究室長 早川典子)

■国際協力事業
文化財の保護及び芸術文化に関する国際的な協力・交流、人材養成事業など申請のあった4件の事業の中から、3件の事業に対して助成を行いました。

- ①敦煌研究院より研究員招致(徐 銘君氏)(敦煌研究院 院長 蘇 伯民)
- ②イタリアにおける文化財建築の保護に関する国際共同研究(名古屋市立大学 大学院芸術工学研究科 教授 青木孝義)
- ③トルコ共和国古代遺跡出土遺物、遺構の保存、修復と若手専門家の養成(公財)中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所 所長 大村幸弘)

■重点助成事業
①昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業
大聖寺門跡所蔵の昭憲皇太后大礼服は、明治時代の西欧化、社会変化、殖産興業などを表象する大礼服であり、現存する最古の昭憲皇太后所用の第一礼装です。貴重な歴史資料であり、近代日本の象徴的遺産として文化財的価値が高いものになります。
経年劣化著しい大礼服の修復、欠失している部分(スカート)の復元のため、令和元年度から令和5年度まで募金を行い



大礼服全体図



インドでの完成式の様子

②サルナート(インド)野生司香雪の仏伝壁画保全支援事業
インドでの修復の様子
インドでの完成式の様子

日本画家・野生司香雪は、昭和7年から11年に5年をかけてインドの聖地サルナートの初転法輪寺で仏伝壁画を完成させました。その仏伝壁画は、今では我が国在外の稀有な近代芸術の文化財であり、また日本・インドのみならず世界の人々との日本芸術を介した文化交流の大切な記念碑となっています。
日本画の大壁画も制作から80有余年が経ち、経年劣化が進み剥落が激しく保全措置が必要となり、令和元年度から令和4年度まで募金を行い、仏伝壁画の剥落止め、古写真のデジタル化、壁画デジタル撮影等の保全事業を実施します。
令和4年度は4年計画の4年目であり、次の助成を行いました。

- ①野生司香雪画伯顕彰会サルナート(インド)野生司香雪仏伝壁画保全支援事業

・壁画保全作業「西壁」・「南壁」
壁画現状記録高精細写真保存

③尼門跡寺院文化財保存修復支援事業

尼門跡寺院の文化財保存修復事業は、故平山郁夫元理事長が上皇后から依頼を受けて実施しているものであり、平成12年度から開始され平成29年度までに29件の文化財を修復しています。
今回の事業は、中世日本研究所(京都)、中世日本研究財団(ニューヨーク)が中心となり、日本だけでなく世界から寄付を募り実施します。

令和4年度は4年計画の3年目であり、次の助成を行いました。

- ①中世日本研究所、眞如寺(京都)
眞如寺蔵無外如大禅尼像他研究修復出版プロジェクト

・無外如大禅尼の研究を推進し、出版事業の準備

④その他(東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業)

例年実施の文化財保存修復助成申請の中には東日本大震災被災文化財の保存修復事業の案件が含まれており、熊本地震被災文化財復旧支援事業の募金及び残算もあつたことから、次のとおり助成を行いました。

(建造物)

- ①岩手県・陸前高田市
旧吉田家住宅主屋復元事業
- ②その他(熊本地震被災文化財救援・復旧支援事業)
例年実施の文化財保存修復助成申請の中には熊本地震被災文化財の保存修復事業の案件が含まれており、熊本地震被災文化財復旧支援事業の募金及び残算もあつたことから、次のとおり助成を行いました。

例年実施の文化財保存修復助成申請の中には熊本地震被災文化財の保存修復事業の案件が含まれており、熊本地震被災文化財復旧支援事業の募金及び残算もあつたことから、次のとおり助成を行いました。

(建造物)

- ①熊本県・神瀬住吉神社
神瀬住吉神社本殿保存修理事業

■シンポジウム等の開催事業、その他普及広報活動

文化財の保護及び芸術振興に関する啓蒙活動、国際交流、広報活動として広報誌の発行、文化交流フォーラムの開催、その他普及広報活動に関連した事業を行いました。

①広報誌「絲綢之路」の発行

- 第99号(二〇二二夏)
令和4年6月25日発行
- 第100号(二〇二二秋)
令和4年10月25日発行
- 第101号(二〇二三新春)
令和5年1月25日発行

発行部数…各2,000部

配布先…都道府県教育委員会、美術館・博物館、文化財研究機関、芸術系大学、新聞社、支援者、賛助会員、理事・評議員、その他関係者に配布

②日中韓文化交流フォーラムの開催

〔コロナ禍により開催中止・再度1年延期〕

③第72回社会を明るくする運動「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」に協力

主催…社会を明るくする運動、中央推進委員会ほか

④講演会・シンポジウム・展覧会等の後援

- (ア)第16回「文化財保存・修復」読売あをによし賞」を後援
主催…読売新聞社
後援…文化庁、大阪府教育委員会、独立行政法人国立文化財機構ほか
- (イ)震災復興支援文化財救済活動チャリティー企画24周年「文化人・芸能人の多才な美術展」2022

(Entertainment Art Exhibition)「駆けよう文化の輪・芸術は地球を救う!展」を後援

会場…品川区O美術館ほか

主催…特定非営利活動法人「日本国際文化遺産協会」、同実行委員会
後援…(公財)文化財建造物保存協会、(公社)日本ユネスコ協会連盟

(ウ)令和4年度文化財保存修復を目指す人のための実践コースを後援

主催…特定非営利活動法人文化財保存支援機構

共催…独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館

後援…(公財)日本博物館協会、(一社)文化財保存修復学会ほか

(エ)「第9回オール・パレ展」を後援

会場…茨城県つくば美術館

主催…オール・パレ実行委員会

後援…ICOM(国際博物館会議)日本委員会、茨城県教育委員会ほか

令和4年度ご支援いただきましたました賛助会員の皆様

法人正会員(十五社) 〔五十音順〕

- 朝日生命保険相互会社
- 株式会社 NKB
- 花王株式会社
- 鹿島建設株式会社
- 株式会社 講談社
- 株式会社 集英社
- 全日本空輸株式会社
- 株式会社 高島屋
- 株式会社 電通
- 野村ホールディングス株式会社
- 東日本遊技機商業協同組合
- 有限会社 丸栄堂

収入印紙、ビール券、お米券、旅行券、Q UOカード、テレホンカード、書き損じ葉書等もご寄付として受け入れております。お送りいただく場合は、当財団事務局宛てに封書にてご郵送下さい。

●税法上の優遇措置

当財団は、「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、賛助会費・寄付金(募金)には税法上の優遇措置が適用され、所得税、法人税等の控除が受けられます。詳しくは当財団ホームページでご確認いただくか事務局までお問い合わせ下さい。

☆☆☆☆☆☆☆☆

☆財団案内及び賛助会員入会申込書のご請求、その他ご質問等お問い合わせは財団事務局までご連絡をお願いいたします。

今号の表紙

平山郁夫
水路閣 南禅寺 2004年



水路閣 南禅寺 2004年

- 三井住友海上火災保険株式会社
- 株式会社 三井住友銀行
- 株式会社 ミロク情報サービス
- 法人維持会員(十三社) 〔五十音順〕
大塚ホールディングス株式会社
公益財団法人鹿島美術財団
洲本観光株式会社
株式会社 精養軒
宗教学法人 全昌院
大日本印刷株式会社
大和建設株式会社
東京ガス株式会社
株式会社 東京ドーム
株式会社 東京マルイ美術株式会社
株式会社 濱名梱包輸送株式会社
株式会社 平成建設

賛助会員ご入会とご寄付を頂きました皆様

●令和5年1月1日から5月31日まで

敬称略/順不同

☆賛助会員

○個人(正)会員

- ☆寄付金
○文化財保存修復・芸術研究等助成事業に対する寄付
共同印刷株式会社
ヤフーネット募金(153名様)
故・細川暢子様遺贈金
- 昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業に対する寄付

た。その一部は今も南禅寺の境内を流れている。疏水の完成は京都の産業界に大いに貢献した。

南禅寺を流れる疏水は、ローマ時代を思わせる赤レンガのアーチ構造。これが京都近代化の象徴、水路閣である。

この水路閣を平山画伯がスケッチしていた時、ちよつとした事件があつた。サイドブレーキがゆるんでいた無人の小型車が突如動き出し、画伯めがけて進み始めたのだ。一瞬、あぶない、というシーンだったのが、運よく途中で止まり、画伯は難をのがれたというエピソードがあつた。

編集後記

新型コロナウイルス感染症もようやく鎮静化の方向にむかっている気配がしますが、まだ油断は禁物でしょう。この病が生んだパンデミックによって、いかに科学・技術が進歩、発展しても、人間は弱い存在であることを改めて認識させられたような気がしています。

これから本格的な暑さが到来いたします。そして上野の山も蝉時雨にまつまれます。皆さま、どうぞ健康に留意され、思い出深い夏休みをお過ごしください。

広報誌「絲綢之路」(シルクロード)

二〇二三年 夏号 通巻第一〇二号

●令和五年六月二十八日発行

★編集発行/公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 事務局◎

〒110-0007 東京都台東区上野公園十二一五

電話(〇三)五六八五一一三一一

FAX(〇三)五六八五一一三二五

URL:https://www.bunkazai.or.jp/

E-mail:jimukyoku@bunkazai.or.jp

★印刷 篠田印刷株式会社

お願い

◎賛助会員ご入会並びにご寄付のお願い

〈賛助会員〉
当財団では、財団の活動趣旨にご理解、ご賛同いただき、恒常的にご支援いただける法人、個人の賛助会員を募集しています。
法人正会員 年額(1口) 50万円
個人正会員 年額(1口) 1万円
維持会員 年額(1口) 10万円
〈ご寄付〉
賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けております。ご寄付の方法は様々な方法がありますので、左記のとおりご紹介いたします。詳細は当財団事務局までお問い合わせ下さい。(電話:〇三・五六八五・二二二二)

(1)銀行振込又は郵便振替

銀行振込や郵便振替でもご寄付を受け付けております。

(銀行振込)

- 三井住友銀行 上野支店
普通 6615500
 - みずほ銀行 上野支店
普通 4478576
 - 三菱UFJ銀行 上野中央支店
普通 0796384
- (郵便振替)
00160・5・12319